平成２７年度　キャリア教育推進地域事業推進校実施報告書

研究テーマ

学校名：須崎市立吾桑小学校

「人間性が豊かで、意欲を持って学び続ける児童」

１．取組内容

①キャリア学習ノート

・本校は、吾桑ノートをキャリア学習ファイルとして活用し、キャリア教育の推進、充実を図っている。この吾桑ノートとは、道徳の時間や様々な体験活動の記録や感想を６年間書きためていくものであり、児童一人ひとりの学習の記録、成長の記録といえるものである。

②体験活動の充実

・本校は、地域とのつながりが深く、地域との体験活動が充実している。そこで、本年度は事前．事後指導をしっかりして、キャリア教育につなげる取り組みを行う。

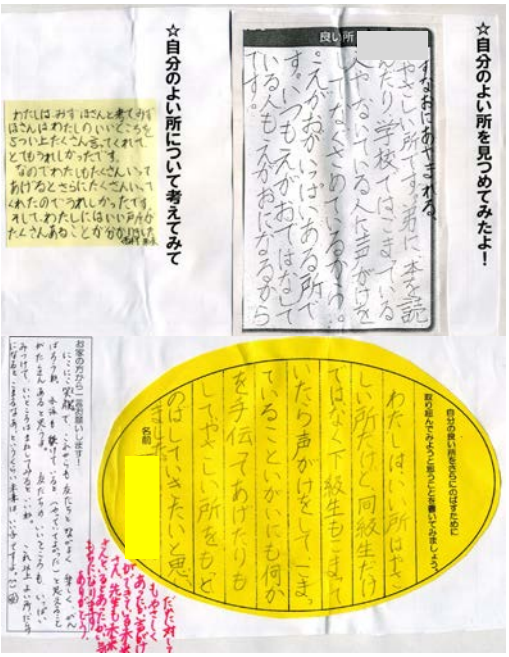
③キャリア教育視点での授業改善

・本年度、授業研究の指導案には、必ずキャリア教育の視点も入れた指導案を作成し、それをもとに授業研究（校内研究）を実施している。

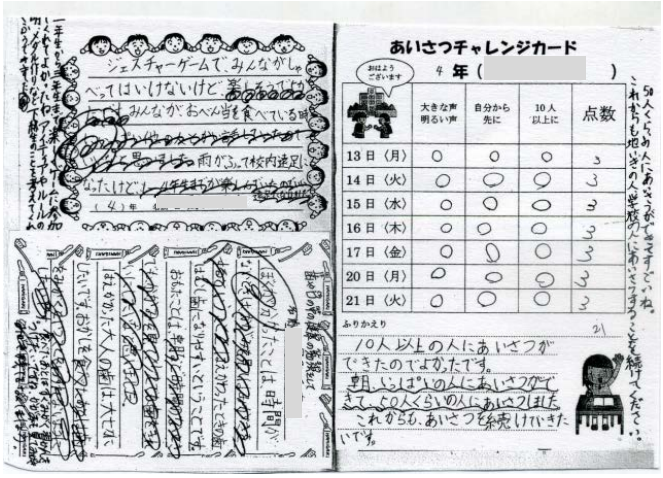
④地域が好きになるような地域教材の開発。

【活用例】

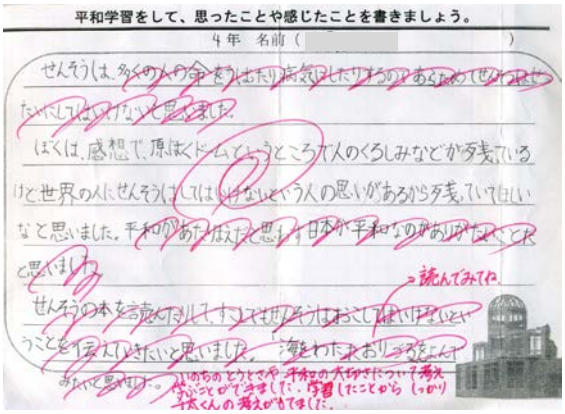
①吾桑ノート（キャリア学習ノート）



道徳のワークシート



行事の後の感想・あいさつ運動結果



平和学習の感想

毎年１１月の道徳週間には、吾桑ノートを保護者にも見ていただき、子どもたちへの言葉を書いてもらっている。
卒業時には、１年生から保管しておいたノートを記念にプレゼントしている。

３学年　体験活動

実施日時　５月１３日・１５日・１８日・１９日

①体験活動　お家探検（社会）

②目的【キャリアプランニング能力（将来設計）】

・自分の将来について具体的な目標を持って、その実現のために、職業体験をして、自分の将来について、考えることができる。
・様々な体験活動や人との関わりを通して、学んだことに気づきをこれからの生活に活かすことができる。
・上記活動を通して、地域を理解するとともに大切にしようとする心情を育てる。

③事前指導の内容

・「友だちの家の場所を知ることは、これからもずっと友だちでいられる。友だちがどんな場所から通学しているかわかる。また、大きくなって、吾桑を離れても家の場所を知っていれば尋ねることもできる。」という事を話し合い、それぞれの家の位置を覚えておくように確認してお家探検に出かけた。

④事後指導の内容や感想

・校区の絵地図をつくり、みんなでそれぞれの家の位置を確認した。広い範囲の場所から学校に来ていることを改めて確認した。「Ｙちゃんの家は、遠かったね。」「Ｈちゃんの家の近くには、マルナカがあったね。」「僕の家は、白石工業のすぐ近くやった。」ことなどを話し合って今後に活かせる良い体験になった。

【児童の感想】

〇みんなの家が知れてよかった。ＹちゃんとＨちゃんの家が、どれだけ時間がかかるかわかってよかった。わけは、みんなの家を知ってなかったら、遊ぶ時にわからないからです。ＹちゃんとＨちゃんの家は、すごく遠いから何分かかるかわかったからよかった。ぼくの家に来た時は、みんなふしぎそうにしていたから、すごいのかなと思いました。

〇ぼくは、１５人の家に行きました。Ｓくんの家はらくについたけど、Ｎくんの家とＨくんの家とＨちゃんの家の道は、ものすごく坂があってきつかったです。Ｙちゃんの家に行った時も坂がいっぱいあって、ものすごくきつい坂もあったので、足がものすごくいたかったけど、帰りは楽でした。そして、ぼくの家について、弟があみ戸をあけて、ハホーと言ってくれたのでうれしかったです。

⑤写真

（桑田山のふもとの地区）

（桜川の沈下橋横の地区）

（各地区で見られる燈明台）

〇それぞれの児童の家の位置が分かったことで、行動範囲も広がった。休みの日に友だちと遊ぶことも多くなり、交流の機会が増えた。

５学年　体験活動

実施日時　田植え（5月２５日）稲刈り（１０月１３日）米販売（１０月１８日）

①体験活動　米作り（社会）（総合）

②目的【キャリアプランニング能力（学ぶこと・働くことの意義や役割の理解）】

・学ぶことや働くことの意義について考えたり、今学校で学んでいることと自分の将来とのつながり考えたりしている。
・米の生産から販売までについて学習したことを自身でも体験する。自分たちが関わった米が売れる事で働くことの意義を感じる。

③事前指導の内容

・社会科の学習で米作りの苦労、工夫、販売努力、日本米消費の必要性などを学習した。
・田植え、稲刈り、米の販売活動を行う。
・『吾桑小学校・５年・米作り中』の看板を立てて、活動内容を知らせる。
・米販売のため、買ってもらえるような米袋の作成をする。また、呼びかけのちらしを作って配る。
・地域の方に協力していただく、ぽん菓子の作り方を確認する。

④事後指導の内容　・地域の方にお礼の手紙を書く。

（稲刈り感想）
・稲刈りは、虫がいたり稲でかゆくなったりして大変だった。けれどぼくはがんばれた。地域の人においしく食べてほしいからだ。他のみんなもそう思っているにちがいない。販売するときもみんなで協力して、たくさんの人に米のおいしさを知ってもらいたい。

（米・ぽん菓子販売の感想）
・初めは、米はうれなかったけど、歩いて売りに行って「おいしいですよ。」と言い続けたら、買ってくれる人が多かったので良かったです。店の店員さんの気持ちがわかったような気がしました。
・ぽん菓子は、自分で作って売るのは、すごく楽しかったです。初めて売る人側がうれしいと言うことが分かりました。

⑤写真

（田植え）

（稲刈り）

（看板立て）

（米販売）

（ぽん菓子作り）

６学年　体験活動

実施日時　５月１８日

①体験活動　修学旅行・キッザニア【職業体験】（総合）

②目的【キャリアプランニング能力（将来設計）】

・自分の将来について具体的な目標を持って、その実現のために、職業体験をして、自分の将来について、考えることができる。

③事前指導の内容

・身近な人に「仕事についてインタビューをしよう」ということで、保護者の方々に聞いてみた。

Ｑ 子どものころにしていたことで、今の仕事に役立っていることは何ですか。

・あいさつ（ありがとう・ごめんなさい）がしっかり言えること　・学校で遊んだルール
・人とのつながり　・遅刻をしないこと　・たくさんの人と遊んだこと
・たくさん読書したこと　・勉強　・あいさつ　・日記を書いていたこと
・やらないかんことはやらないけないこと　・愛想よくすること　・親の畑仕事を手伝ったこと
・時間や約束を守ること　・硬筆（人に見やすい字できれいに書くこと）
・お手伝いやそうじをすること　・料理したこと　・整理整頓をしたこと　・そうじをすること

・保護者へのアンケートを将来の仕事に夢をもたせると同時に、自分らしく生きていくための基本的な力として、しっかり身につけさせたい。

④児童の感想

【マジシャン】
・自分に全く向いてないと思っていたけれど、マジックをして成功すると、お客さんが喜んでくれるうちに自分も人を喜ばせて、うれしいという気持ちになりました。すると、自分にもいがいにむいているのかなと思ってきました。おかげで、自分の知らなかったこういった内面が分かったし、仕事の大切な事をすごく学ぶことができました。
【バスガイド】
・大切な事は、やはり笑顔です。だって、こわい顔をしているとお客さんが来ませんから。
【配達】
・地図を見てやるのだけれど、どこがどこかわからないから難しい。
・届けた人に、「届けに来ました」と心をこめて言うということを学んだ。

⑤事後指導の内容

・自分自身が体験した仕事について「キッザニア新聞」としてまとめた。
・仕事の紹介を友だちに紹介して広げていく。　・未来の自分を想像して記事にしてみた。

３学年　体験活動の再プランニング

【これまでの取組】

今までにも、温泉体験は行われていたが、須崎のくらしで、地域の勉強をしている時期の３年生に定着させた。そこで、本年度は事前事後の活動をもう一度見直し、今後継続した体験が出来るように、計画を立て直してみた。

実施日時　１０月１４日

①体験活動　桑田山温泉体験（社会）（総合）（国語）

②目的【人間関係形成・社会形成能力】

・地域の温泉に体験させてもらうことで、公共の施設での行動の仕方を学ぶ。
・地域にある温泉を体験して、良さを味わうことができる。

③事前指導の内容

・温泉の由来を知る。
・温泉に入る時のマナーを確認する。
・質問を考える。

温泉を利用する時の注意

１．みんなが入る温泉だからマナーを守る。
２．ほかのお客さんにめいわくをかけない。
３．おふろの中に、タオルをつけない。
４．からだをあらってからおふろに入る。
５．おふろの中では、騒がない。

④事後指導の内容

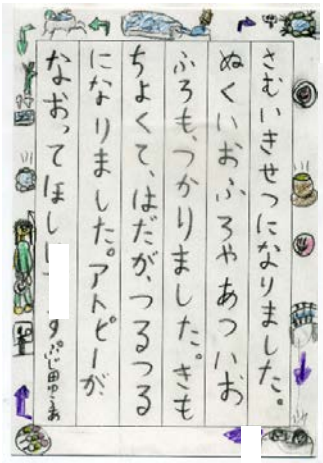
【感想】

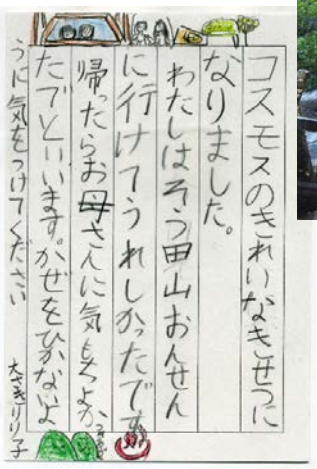
◎ぼくは、おんせんに入って気持ちよかったし、すごく広くてみんなもよろこんでいました。また、来たいです。つぎは、家族みんなとなかよく入りたいです。また、こんども来たいです。こんどもよろしくお願いします。

◎わたしは、ここにはじめて来てとても楽しくて気持ちよかったです。温せんも気持ちよくて、お母さんもお父さんもとてもうらやましいと言っていました。なぜなら、お母さんもお父さんも妹２人も来たことがないからです。また、家族で来たいです。

◎わたしは、はじめてそう田山温せんに来たからうれしかったです。おゆがぬるぬるしました。ろ天ぶろが気持ちよかったです。ぬるぬるしたふろは、すべりました。次は、そう田山温せんにお母さんと来たいです。

【お礼の葉書】





○児童から温泉体験をして、「吾桑小学校で良かった。」と言う声があった。また、保護者の方の中にも、地域の温泉について十分知らなかったとの声もあり、改めて、地域の良さを感じる良い体験となった。
○ちょうど温泉におい出たお客さんも「いい活動をしていますね。」と言って下さった。

２．成果

①本校は、地域とのつながりが大変深く、地域の老人施設や公民館行事にも小学生が参加をしている。また、地域の方が、チューリップやコスモスなど季節ごとにお花を見る機会を設けて下さり全学年の「心の開放」に力を貸してくれている。お芋植えや収穫などの活動にも大変協力的で、年間を通してどの学年も関わりを持つ機会が設けられている。このつながりを、キャリア教育の視点で見直すことができたことは、本校の大きな成果であると考える。

②ふるさと感謝祭では、上級生が踊りを披露したり、地区民運動会では、各地区の代表になって小学生が活躍したりしている。このように、子ども達は、地域への行事には多数参加して、地域の方々と交流に積極的に取り組んでいる。これは、キャリア教育の中で、人間関係形成・社会形成能力の育成につながる非常に重要なことであり学校としてもこれらの行事に子ども達が一人でも多く参加できるよう働きかけて行っているところである。地域の皆さんも「吾桑の子」として、温かく見守ってくださっている。

③本校は、継続して道徳教育に力を入れてきた。道徳教育は、キャリア教育につながる視点がたくさんある。そこで、道徳の授業をする時には、キャリアの視点も入れて指導するようにした。

④全国学力調査の「将来の夢や目標をもっているか。」の質問に対して、８０％以上の結果が出ている。これは上級生になるにしたがって、将来を見据えた指導をしてきた成果だと思われる。

⑤本校がおこなっている「道徳アンケート」の「地域や社会への関心」が９０％以上に達している。これは、これまでの地道な取り組みの成果だと考える。

⑥本校では、集会の時に代表がスピーチを行い、それに対しての感想を言ったり、スピーチを行った児童が感想に対して、「お返し言葉」を言ったりしている。これは、本校の児童コミュニケーション能力の育成につながっている。

３．課題とその改善策

①研究に取り組んで、改めて見直すとどの取組もキャリア教育につながることがたくさんあった。さまざまな活動をする際に、事前事後の指導の重要性を確認できた。

②コミュニケーション力を高めるためには、継続して集会での取組を継続していきたい。

③地域との関わりは深いが、全国学力調査で「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。」の質問に対して、考えている児童が４２％だった。今後は、地域の方の温かい見守りに対して、自分たちにできる事を考えていく機会も設けたい。

④中学校と違い、小学校では将来の見通しが見えにくい面もあり指導の弱さを感じた。小学校段階でできる事を今後も取り組んでいかなければならないと思った。